われもこう 第27号

2009年7月29日 発行

●軽井沢の貴重な植物

ミヤマウズラ（ラン科）

山地の林内に生える。
茎は基部が横にはい、高さ一〇～一五㎝。
葉は下部に集まり広卵形で、
網目状の白い斑がある。

花期は、七～八月頃。
淡い桃色の小さな花を
咲かせる。

名は深山に生え葉にウズラの羽のような斑点があるから。
しかし深山とは限らず平地の疎林にも生える。
斑の模様は千差万別で変化が多く全くないものもある。
軽井沢の林にも沢山あったが、開発により失われている。

軽井沢町植物園名誉園長　佐藤邦雄先生　追悼特集号

佐藤邦雄先生と「われもこうの会」

いつも植物園の前でベージュ色の作業服と同じ色の帽子をかぶって立っていらした先生にもう会えないと思うと、植物園の魅力が半減してしまうような気がします。先生は誰にでも気さくで、園の前を通るバスの運転手さんにも必ず笑顔で手を振っておられました。

一九九八年に「われもこうの会」を創る前に、佐藤先生に相談に行くと、「それはいい！園で準備できる種や苗はあげるから。」とたいへん喜んでくださいました。その後も何度も何度も電話がかかってきて、いろいろな苗をくださいました。おかげで、前沢の原っぱ（北）には、たくさんのアサマキスゲや、オミナエシ、カリガネソウなどを植えることができました。そのころ、先生は植物園への通勤にかわいいカブバイクを使っていらして、毎朝原っぱのそばを通るので観察してくださって、よくアドバイスをくださいました。

「野草の肥料には、油粕がいい。株の根元に少し離して霜降り程度、撒いてあげるといい。」と実際に撒いて見せてくれたりしました。

新幹線工事で町のいろいろなところに出来た空き地が、ヒメジョオンや外来種の空き地になる前に、どうにかして軽井沢らしい野の花の咲き乱れる景観を取り戻したい、という気持ちで始まった「われもこうの会」ですが、その当時、私たちは、町に自生していたのはどんな花かも知らず、いわば、素人の「怖いもの知らず」で始めたような状態でした。

土の準備の仕方から、苗の見分け方、病気になったときの対処法など、佐藤先生に一つ一つ疑問が出るたびに教えていただいて、どんなに助かったかわかりません。先生がいつでも植物園にいて、わからないことは教えてくださるという安心感があったから、会を創り発展させることが出来たのだとつくづく思います。

佐藤先生はもうあちらに行ってしまわれて、毎日、牧野富太郎先生や、原寛先生と楽しそうに植物のお話をしていられると思いますが、それでもやはり、私たちにもっとたくさん教えてくださることがあったのに…、とたいへん口惜しく、寂しく、思います。

佐藤邦雄先生、本当にありがとうございました。

（二〇〇九年六月二四日）

（佐藤先生のご存じだった、かつての軽井沢についてのお話が、軽井沢サクラソウ会議発行の『もう一度みたい！軽井沢の草原・湿原』に「軽井沢の花　八〇年」として採録されております。是非、お読みください。）

「われもこうの会」前代表
今城治子

＊＊＊＊＊

草花を見るたびに…

私が佐藤先生と出会ったのは六〇歳前半で植物園が自宅から近いこともあってよくふらりと立ち寄っては色々と植物に関する話を聞くのが楽しみであった。それが縁となって先生の下で仕事をする事になり、植物だけでなく人生そのものの話を聞き多くを教えて頂いた。バラとヒマワリとチューリップくらいしか知らなかった私がどんどん山野草や信州の草花、野山に心ひかれ、やがて悲しい時、苦しい時にその草花にいやされるようになった。佐藤先生とは必然的に会うべくして会った貴重な方と一方的に思っている。お姿を拝見する事は出来なくなったけれど一つの花一つの草を見る毎にそれを教えて下さった佐藤先生の心を感じることが出来て幸せに思う。

木村久美子

＊＊＊＊＊

「いいだよ、いいだよ」

とある場所の植物調査に園長先生と約束の日、当日はあいにくの雨と先生の脚を痛めていて退院されたその数日後ということもあり、職員の方が引き留めるのもきかず、さっさと雨ガッパを着込み、私より先に車に乗り込み、「いいだよ、いいだよ」と言う先生の言葉に私は後ろ髪をひかれる思いでご一緒したものでした。

現地では長靴が半分埋まる沼地、先生に何かあってはとヒヤヒヤ心配しながらついていくこっちの気持は通じず、膝丈の草の中、杖でパッパッとはたいて道を開けて歩く速さには脱帽そのものでした。

先生の植物に対する情熱は、天候関係なし、体を支える杖も時には魔法の杖となると知ったものでした。

山崎洋子

＊＊＊＊＊

草木を吾れの友とせば

植物園で先生にお目にかかったおり、「今でも各地からサクラソウを送ってくるんだ」と、嬉しそうにお話になったことを思い出します。我が家には先生の著作や監修本が数冊あります。その内の一冊には「朝夕に草木を吾れの友とせば心淋しき折ふしもなし」の牧野富太郎博士の御歌を添えて、先生がサインをして下さいました。宝物になりました。

江川洋子

＊＊＊＊＊

佐藤先生を偲んで

佐藤先生がお亡くなりになったのを知ったのは、五月中旬に植物園を訪れた時であった。久しくご無沙汰している園内の草花の様子を知り、自宅の山野草の管理を考える参考にと立ち寄った。園内を一巡したが、何時もは目にする作業員の人達の姿

はなく、何処かが変だなと思いつつ出口近くにいた方に「お元気ですか、佐藤先生は」と声をかけた。「お亡くなりになりました」の言葉に目の前がくらっとし、頭の中が真っ白になった。千葉県副知事時代の平成一六年の夏、暑い日差しの中に麦藁帽子をかぶり首に巻いたタオルで汗を拭きながらゆっくりと歩いている佐藤先生に園内でお会いした。日焼けした笑顔が若々しく、目を細めながら御自分の植物との係わりを話してくれたのを伺ったのがつい昨日のようである。人が失ってはならない優しさを、草花を通して語ってくれた佐藤先生に感謝し、ご冥福をお祈りしたい。

「草花に思い託して幾星霜
旅たつ春に思い咲かせて」

合掌

大槻幸一郎

軽井沢自然クラブだより

毎年中部小学校で蝶の写真家栗岩さんや軽井沢サクラソウ会議、われもこうの会のメンバーが合同でクラブ活動に参加しています。昨年いっしょだった子どもたちからメッセージが届きました。

＊　＊　＊　＊　＊

軽井沢自然クラブを教えてくださってありがとうございました。

ぼくは軽井沢自然クラブに入る前はあまり自然のことを知りませんでしたが、軽井沢自然クラブに入って、知らなかった虫とか草や木がいろいろわかりました。自然のことを教えてくださってありがとうございました。

行田 拓人

軽井沢自然クラブでいろいろな草や虫、自然のことを教えてくれてありがとうございました。私は、さいしょ自然のことがわかりませんでした。軽井沢自然クラブに入って一番の思い出は、パンを作ったことです。家でもたまに作っています。いつ食べてもあきないあじです。パン作りや虫、草花のことをいろいろ教えてくれてありがとうございました。　なかじま せいな

みなさんいろいろとおせわになりました。長尾先生やくりいわさんやたまのうえさんやいましろさんなどには、ハイキング、サクラソウのうつしかえなどいろいろとおせわになりました。私は一番心に残っているのは、バスハイキングの時に大きないもむしを手の上におくとひっくりかえってくすぐったいっていうのがとってもおもしろくて思い出に残っています。ほんとうにいろいろとおせわになりました。ありがとうございます。　土屋 葵

みなさん、いろいろとありがとうございました。みなさんがよい思い出を作ってくださったので、6年生なったらまた軽井沢自然クラブに入ったらまた、ハイキングや、かみしばいなどをして、またいい思い出を作ってください。おねがいします。ほんとうにありがとうございました。　高橋紗菜

野の花と友達になり話をしよう

森林インストラクター　　高尾幸男

ここ数十年の間に、人間の行為が原因となり軽井沢の野の花が生きていくのに、とても困難な状況に直面しています。生きる場所を失ったり、繁殖する条件が悪くなったり、時には盗掘に遭ったりしています。

われもこうの会の目的は、野の花を守り、増やすことです。野の花とは自然に生きる野生植物のこと。守るとは生態学的に保全すること。増やすとは以前の生育状態に戻すことです。

野の花と私たちが、この軽井沢の地で共に生きていくためには、私たち一人ひとりはなにを知り、なにをすべきかを考えてみましょう。知るべきことは●目の前の１本の野の花の形・色・匂い・生活様式など、よく知れば名前は後でついてくる●自然科学としての保全生態学でいう生物のつながり●自然のすばらしさ・不思議さ・怖さ＝センス・オブ・ワンダー等ではないでしょうか。為すべきことは●野の花をほんとうに好きになること●野に出て五感でメッセージを受取ること●野の花と会話を試み、他の動植物との関わりを教わること●人為要因であっても弊害となる特定植物は、心に痛みを感じながらも私たちの手で駆除すること等ではないでしょうか。

野の花は自然の中で生きていることが望ましいことです。草原や湿原、川沿い、田んぼの畦、林床、敷地内、路傍等です。庭の花壇やプランターに移植した野の花は、動物園の野生動物と同じで、本来の姿ではありません。野生植物と、人間が手を加えた栽培植物・園芸植物とは区別する必要があります。野生植物を野生動物または野生生物という言葉に置き換えても同じことが云えます。野の花を生命としての尊厳を感じながら、手折り飾ることは、きっと野の花も悦んでくれることでしょう。

目の前にある１本の野の花をよく知ると同時に、他の生物との関わりとしての保全生態学も学び、長い年月営まれてきた生命誌としての尊厳を理解し、更には人間社会の都合も考慮するという多層的な認識と行動が私たちには肝要です。そうすれば数十年後には野の花が咲き続ける、多様ですばらしい生態系の軽井沢が復元し、次世代に引き継ぐ環境財産になることも充分可能ではないでしょうか。

〈参考図書〉

『野生動物と共存できるか
保全生態学入門』
高槻成紀著　　岩波ジュニア新書

●うどん屋さんと「幻の山野草」

土屋　忠史

昨年、おいしいうどん屋さんを見つけ、それ以来チョクチョク寄っています。手入れの行き届いた入口付近の庭を見ると、ほっとひと息つきます。今年春頃にお店に行くと、庭に全体が銀色で、赤紫っぽい花を見かけたことがありました。

すると五月二二日の信毎に、「雑草と思ったら…オキナグサ」という見出しで記事が載っていました。例のうどん屋さんの例の花のことではないですか！　びっくりしました。私の見たのはオキナグサだったということです。

記事では、野生のオキナグサは県版レッドリストにも載る絶滅危惧種と説明されていました。

早速、うどん屋さんのご主人にお会いし、いろいろお話を伺ってきました。昨年四月頃、赤紫の花がヤタラいっぱいあることに気が付きましたが、雑草と思って抜いていたようです。なんでこんなに増えるのかイライラしたそうです。

ところがある時、信毎のシリーズ「希少種はいま」を見て、初めてこれがオキナグサとわかり、まして絶滅危惧種と判明し驚いた次第。

今年になって、春ごろに店の庭全体にオキナグサが咲き、お客さんから問い合わせが多数寄せられたということです。一年程で四〇〇株ほどに増え、余り増えても大変なのでオキナグサを育ててもらえる方に、種子を差し上げることにされたそうです。

信毎に記事が掲載されてからは、お客様の反響がすごく、もうすでに二〇〇名位の方に種子を差し上げたそうです。

ご主人は、山野草には多少の興味はあるようですが、今のところは自然に育ってくれるオキナグサに集中したいそうです。

ご主人には、「われもこうの会」のことも説明しておきました。いずれは、私どものお花畑にオキナグサを増やしたいものですね。

ところで、このおいしいうどん屋さんは、追分のサンライン入口にある「松鶴」というお店です。ご主人は実直な方で、コシのある「手打ち信州うどん」は天下一品です。「オキナグサの種はまだありますので差し上げます」と、仰っていましたのでご希望の方は、「われもこうの会」と言って、声をかけて見て下さい。私もいただき今ポットで育てます。定休日は木曜日です。

オキナグサ（翁草）

キンポウゲ科の多年草

絶滅危惧植物Ⅱ類に指定

最近では、目にすることも難しく「幻の山野草」になりつつあり、絶滅の危惧に晒されている貴重、希少種の山野草です。

会員の声

●一〇年ほど前、新しい家に移るときどんな庭にしようか考えました。前の家は、大きな木の下で苔が良く育ち、そこを気に入ったフシグロセンノウが見事でした。今度の庭は日当たりがよくどんな野の花が育ってくれるか楽しみでした。

前の家からきた花。いただいた種や苗。他から移したもの、消えてしまったり減ったものもありますが、春になると次々に咲いて楽しませてくれます。ずぼらでガーデニングなどは苦手で、雑草を抜く以外何もしないのですがここを気に入ってくれたものは種を落とし、野趣たっぷりの花畑になりました。今年は特にアサマフウロが増えています。ちなみに我が家の周りも野草が一杯です。特にルリソウ、ユキザサ、エンレイソウ、ルイヨウボタン、オカトラノオの自生地です。今年は、ヤマシャクヤクを見つけました。

朝子

●退職するまで草花に興味がありませんでした。思い起こせば幼少の頃、「草」といえば判別できたのが、「すかんぽ」「クローバ」「つくし」だったような気がします。これらの共通点は食べられることで、戦後の食糧難にあって「すかんぽ」「クローバ」のすっぱい味がおやつになっていたわけです。その他木に拡大しても「いちじく」「みかん」と食べられるもののみ関心があったことが分かります。

草花といえば野草をイメージしますが、最初に「花」を意識したのは本白根山山頂に生えていた「こまくさ」の繊細な花ではないかと思います。わざわざ他の植物の住まない、住めない荒野で、いかにもほそぼそと生きている。このことが強い印象として残りました。人生においても色々な生き方がありますが、ある意味敗残者、見方を変えれば開拓者としての生き方な訳です。人類も木から下りたとき、わざわざライオンなどの敵が多く住む平原へは行きたくなかった。やむを得ず他の猿との競合がない、住んでいないところに向かい、そして幸運にもそれが成功した。という感じがします。

次に目を引かれたのは軽井沢の町花サクラソウでした。あざやかな濃い桜色はどこが桜？という感じもしましたが、花が密集して一面に咲く様は、最盛期の桜を思い出させるのでしょう。咲く期間も結構長くて、これを見るたびに「ああ軽井沢に来た」という気分に浸ったのでした。昨年われもこうの会に入れていただいてから、軽井沢に咲く山野草は多年草が多い、サクラソウもまたしかり、ということを知り、びっくり仰天しています。か弱い草がどうやって寒い冬を乗り切るのか？軽井沢は地面の下も寒そうです。心配してしまいます。

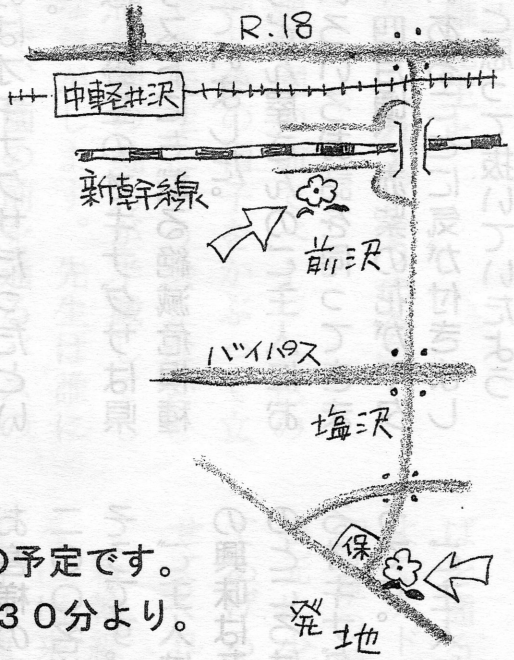
山野草については何も知りませんが、庭に分けていただいたアサマキスゲを植えました。何年か後に咲いてくれることを祈っています。今後ともご指導ご鞭撻をよろしくお願いします。

佐藤和夫

原っぱでボランティア！

われもこうの会　２００９年夏から秋のスケジュール

８月　５日（水）　9:00～　前沢の原っぱ[西]
　　２６日（水）　9:00～　前沢の原っぱ[西]
９月　６日（日）13:30～　発地 南保育園脇
　　１６日（水）13:30～　前沢の原っぱ[西]
１０月　４日（日）13:30～　発地 南保育園脇
　　２１日（水）13:30～　前沢の原っぱ[西]
１１月　８日（日）13:30～　発地 南保育園脇



＊集合時刻に注意！　８月は朝９時より1時間ほどの予定です。
　　９月以降は通常通り午後１時３０分より。
＊小雨決行、雨天の場合は中止。
＊持ち物：日除けの帽子、園芸用手袋、スコップや鎌、お茶タイム用Myカップ
＊会員以外の方の参加も大歓迎です。

予告

毎年恒例の**種分けパーティー**を11月下旬に行います。

われもこうの会の原っぱや会員宅の庭で収穫した種から山野草を育ててみませんか?

会員以外の方の参加もお待ちしております。

詳しい日時、会場等は、われもこうの会ホームページでお知らせします。

❋❋❋ 編集後記 ❋❋❋

何年か前のことですが、植物園の事務所に立ち寄った時、「われもこう」の表紙がカラーになっているのを見かけました。佐藤先生が色鉛筆で塗り絵をしてたそうです。毎号「われもこう」の発行を楽しみにしてくださっていた佐藤先生、これからも見守り続けてくださることでしょう。

ホームページもご覧ください
http://www.h5.dion.ne.jp/~waremoko/

発行/われもこうの会　　事務局　TEL・FAX/　0267（46）2505